

教職員 各位

神戸大学生協同組合
専務理事 坂本 安弘

総代会終了報告ならびご支援のお願い

平素は神戸大学生協の事業・活動にご理解、ご協力いただき誠に有り難うございます。

さて、5月26日(木)に第66回通常総代会を開催し、全議案を可決承認頂くことができ、無事に閉会しましたことを報告致します。

※総代会議案書

※経営概況

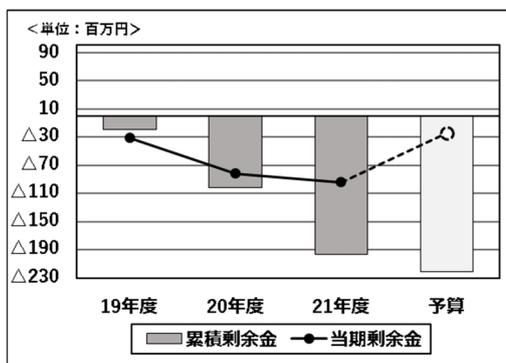


当初は2億円を大きく超える損失を見込んでおりましたが、教職員皆様のご支援により、約1億9,700万円の累積損失(赤字)に圧縮することが叶いました。皆様からの多大なるご支援、心より感謝申し上げます。

2022年度も損失予算を組まざるを得ない状況であります。経営再建に取り組み、累積損失をできるだけ早く解消できるように尽力する所存です。

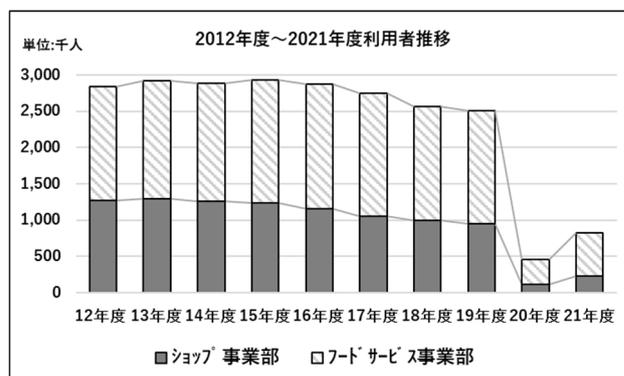
ただ、経営再建に際しましては、当生協のみで成し得ることは難しく、引き続き教職員皆様のご支援が必要です。

何卒、当生協の事業・活動にご理解頂き、食堂・ショップのご利用ならびに校費利用のご用命をお願い致します。



現在の状況としましては、4月11日(月)の授業開始より基本対面授業となり、Before コロナ時の利用者数との比較では、約70%までご利用が回復しています。この2年間、事業・活動が儘ならず、生協職員は伏し目がちとなることの連続でした。皆様のご支援や励ましのお声が活力となります。

※皆様に日々ご利用・ご活用頂くことが大きな力(原動力)となり、店舗の活性化や生協職員のモチベーション向上につながります。



これからもキャンパスコミュニティーの一員であり続けられるように。

そしてさらなる「キャンパスライフの向上」ならびに「大学貢献」ができるように。

生協職員一丸となり、事業・活動に努めて参ります。

※生協へのご加入

なお、引き続き当生協へのご加入を何卒よろしくお願い致します。

※院生・学部生の約99%が当生協にご加入頂き、生協ICカード利用決済も75%に達しています。

また、既に当生協へご加入頂いている場合、出資金の増額をご検討頂ければ幸いです。



《参考資料》

①利用回復率

2022年度と2019年度の授業開始日から5月末までの利用人数を比較しました。全体で約70%の利用回復なっています。

※但し、営業時間が異なるため、時間帯利用人数を補正した上で比較しています。

各キャンパスの利用回復は以下の通りです。

- ・鶴甲第1キャンパス 59.4%
- ・鶴甲第2キャンパス 64.3%
- ・六甲台第1キャンパス 60.1%
- ・六甲台第2キャンパス 87.2%
- ・楠キャンパス 63.7%
- ・名谷キャンパス 58.1%
- ・深江キャンパス 66.7%

店 舗	2019年	2022年	利 用 回復率
	4月9日～5月末	4月11日～5月末	
国際文化学部店	54,145人	34,533人	63.8%
医学部店	10,611人	6,579人	62.0%
保健学科店	8,593人	4,337人	50.5%
BELBOXショップ	30,865人	19,625人	63.6%
発達科学部店	12,839人	6,892人	53.7%
海事科学部店	7,571人	3,717人	49.1%
LANSBOX店	20,678人	15,029人	72.7%
ショップ計	145,302人	90,712人	62.4%
国際文化学部食堂	49,020人	26,710人	54.5%
BELBOXカフェテリア	29,892人	16,668人	55.8%
レストランさくら	3,236人	2,169人	67.0%
工学部食堂	69,832人	65,123人	93.3%
LANSBOX食堂	34,511人	28,928人	83.8%
発達科学部食堂	9,181人	7,264人	79.1%
医学部食堂	32,604人	20,966人	64.3%
保健学科食堂	7,672人	5,112人	66.6%
海事科学部食堂	9,245人	7,493人	81.0%
食堂計	245,193人	180,433人	73.6%
合 計	390,495人	271,145人	69.4%

②決算関係

3月から5月の損益計算書は以下の通りです。

(単位：千円)

	神戸大学生協 計				本年 予算	予算 対比 (%)	前年度 実 績	前年度 対比 (%)
	ショップ計	食堂計	総務部計					
供給高	692,015	585,593	106,421	0	656,165	14.4	604,613	5.4
供給値引	1,428	1,428	0	0	3,203	▲4.2	1,491	▲55.4
純供給高	690,587	584,165	106,421	0	652,962	14.5	603,122	5.7
供給剰余金	150,607	90,364	60,242	0	137,479	29.6	116,170	9.5
その他事業収入計	80,566	64,760	56	15,748	99,396	10	73,216	▲18.9
事業総剰余金	231,173	155,125	60,299	15,748	236,875	22	189,387	▲2.4
人件費合計	91,107	41,698	34,640	14,768	92,476	▲9.1	100,242	▲1.4
物件費合計	73,199	21,711	19,445	32,041	72,103	0.1	73,107	1.5
事業経費合計	164,306	63,409	54,085	46,810	164,579	▲5.2	173,350	▲0.1
事業剰余金	66,866	91,715	6,213	▲31,063	72,296	316.9	16,037	▲7.5
事業外収益	2,877	447	1	2,428	2,219	▲45.1	5,241	29.6
事業外費用	391	55	105	230	0	▲36.9	620	
経常剰余金	69,352	92,107	6,109	▲28,865	74,515	235.7	20,658	▲6.9
特別利益	1,505	0	0	1,505	0	2351.7	61	
当期剰余金	70,857	92,107	6,109	▲27,360	74,515	241.9	20,719	▲4.9
前年度繰越剰余金	▲196,963	0	0	▲196,963	0	▲92.4	▲102,327	
当期末処分剰余金	▲126,105	92,107	6,109	▲224,322	74,515	▲54.5	▲81,607	▲269.2

③生協 IC カードの決済利用

食堂・ショップのご利用に際して、約75%が生協 IC カードでご決済頂いています。生協 IC カードを多くの皆様にご利用頂くことで、これまでの課題であったレジ混雑が大きく改善されました。

※混雑緩和やレジでの接触が減少することで、感染拡大防止の効果もあります。

また、対象商品には IC ポイントを付与しており、いままで以上に利用還元を行うことが出来ています。今後も、IC カードの決済利用を通じ、利用還元に力を入れたと考えています。

ぜひ、生協加入ならびに生協 IC カードのご利用をご検討ください。

